

# 同推協だより

No.137

2024年3月発行  
神前地区同和教育推進協議会  
E-mail:kanzaki-do@m2.cty-net.ne.jp



神前地区同和教育推進協議会 設立50周年記念

## 神前同推協「50年のあゆみ」発行について

神前地区同和教育推進協議会 会長 近藤静夫

今年度2月4日、「同推協のつどい」の場で記念誌を発行・配布させて頂きました。

本紙面をお借りして、執筆して頂いた皆様、先輩諸氏の遺稿掲載を許可して頂いたご家族の皆様、本記念誌の編集にご苦労頂きました編集委員の皆様、心より厚く御礼申し上げます。

「50年の歩み」として、設立当時の先輩方の想いと現在の啓発委員方の想いや活動の記録をまとめ、今後の同推協活動の参考資料になればと思います、役員会で発行を決め本日に至りました。

記念誌の発行準備をする中で、改めて気づかせていただいたことを少し述べさせていただきます。資料を確認する中、設立当時の先輩方の同和問題・部落差別解消に対する想いやその活動の記録を振り返ることができました。

設立の1973年、当時は1965年8月に提出された同和对策審議会の答申に基づき、同和对策特別措置法が1969年に施行されてから4年目で、国や地方公共団体の施策がようやく始まったところで、まだまだ世間ではその活動の必要性が十分認識されていませんでした。その中で、同推協設立直後の初代会長より、神前地区の各自治会長に「差別のない明るい地区の建設」を目指すよう、要請文を出したという記録が残されていました。

現在それは、「住みよい・住みたい 人権のまちかんざき」として、神前地区のまちづくりのローガンとなっています。昨年スタートし、これから策定される「新しいまちづくり構想」の中では、ローガンも新しくなると思いますが、神前同推協は「差別のない明るい・住みよい地域づくり」の精神を引き継ぐとともに、神前同推協規約の第1条（目的）にある「本会は、国民的課題でもある同和問題について正しい理解と認識を深め、部落差別をはじめ、あらゆる差別を無くすことを目的とする。」を全員で確認・共有し、今一度「同和問題とは何か」を正しく理解し認識することが、現在も続く「心理的な部落差別」を無くし、他の人権問題を解決する道だと考えます。

部落差別は、「違い」を人によって作られた差別であり、永くその住民の人権を奪ってきた問題です。根拠のない間違った言い伝えなどは、躊躇なく否定し、そのことを自分の心の中から消し去るとともに、自分の持つ人権が誰かに奪われていないか、又自分は他人の人権を侵していないかを考える力を持つ必要があるのだと、意を新たにすることがなりました。

皆さんもこの機関紙を読んで頂き、出筆者の想いや活動の足跡に触れて頂きたいと願っております。

### 「温故知新」

温故知新の由来は『論語』の「為政」にあります。そこでは孔子が弟子に伝えたこととして「古くから伝わる教えを大切に、新しい知識を得ることが大切である、そうすれば誰かに教える師となることができる」と表現されていました。

神前同推協「50年のあゆみ」を読んで、初志を省みてほしいと思います。読んでみたいと思われる方は、団体事務局まで申し出てください。



## 2023年度 神前同推協各部の活動総括

【企画部】部長 坂倉乾三



2023年度は、神前同推協結成50周年ということで、記念誌の発行、同推協マスコット「カンちゃん」の友だち「ざきちゃん」の誕生、人権フェスタ神前での舞台劇発表（特に児童による水平社宣言の朗読、「寺方帰れ事件」の劇、地区懇・人権学習の場面等）、そして四日市市文化会館での三人教報告等、特別な行事があり、例年よりもたくさんの人が集まる機会がありました。ただ、これらの行事やイベントを進める中で、一部の方に仕事が偏ってしまって負担をかけてしまったことが気がかりでした。コロナが5類に切り替わったものの、身近に感染者が出ると気を引き締めたりする年でした。

【広報部】部長 川北 敏

今でも各地で戦争や紛争が起きています。いつも傷ついたり命を落としたりするのは、何の罪もない人たちばかり。人が人を大切にするのは当たり前の事なのに……。人に優しいまちづくりのため何が重要なかを、みなさんと一緒に考えて行きたいと思った1年でした。



【総務部】部長 清水浩己

今年は設立50周年ということで、特別な行事も計画し、啓発委員のみなさんや地域のみなさん方と取り組んできました。人権講演会では「命の大切さ」から人権を見直そうと林先生にお願いしました。視点が少し変わり、自分や家族を振り返るにはよかったと自負しています。総務部は、各部の企画する行事の調整や準備を行いました。今後もより一層神前地区が住みよい町になるように願っています。



【研修啓発部】部員 野波大輝（神前小）

今年度は、数年ぶりに全4回の啓発委員研修会を開催することができました。「自分の心をほりさげる」をテーマに、参加者が部落問題を「自分事」として考えることのできる研修会を目指して、部会の中で話し合ってきました。差別の問題を「自分事」にするためには、加差別の立場にいる自分自身の差別心に向き合うことが必要です。懇談会を通して、一人でも多くの方が自分の心をほりさげ、自分の中の差別心に気づくきっかけになっていることを願っています。



## 四同研課題別学習会に参加して



学習会に参加して一番納得できたのは、「情報に振り回されることは、他人の人権を奪うことにつながる。」ということを知ったことでした。そのうえで、「情報の正確性を確かめること」や「一方の立場の情報だけではなく、複数の情報を得ること」が必要だと感じました。最近では「能登半島大震災」のフェイクニュースが話題になりました。テレビ・ラジオやSNSの情報は、被災された方々の命に係わる情報が多くあるはずなのに、多くの情報の中にフェイク情報があると、何を信じていいのかわからなくなります。情報をわざと操作することによって、命を危うくすることがあると分かります。これこそ人権侵害の最たるものだと思います。それを防ぐには、まずは私自身「情報を鵜呑みにするのではなく、一度立ち止まり判断する力」を高めていかなければならないと感じました。

今回の学習会では、メディアリテラシー（メディアを主体的に読み解く能力）を身に付けることは、情報化社会を生きるうえでとても大切なことだと思いました。

神前小 西村彩花



## 神前同推協の今までとこれから 同推協のつどい

2月4日(日)、神前同推協設立50周年記念年の締めくくりとして「同推協のつどい」が、寺方児童集会所ホールで行われました。82名の方に参加していただきました。

会長あいさつ、来賓の方々のあいさつから始まりました。

50周年の記念誌は素晴らしいです。じっくり読もうと思います。涙なしでは読めない気がします。

川村市議のお話にお話を心動かされました。耳に心地よいお話しではない印象を受けましたが、それこそが大切で核心にせまることだと感じました。私の心に壁は本当はないのだろうか？

川村議員の「利害関係が絡むと差別が表面化する。」との説明に納得しました。また、「自分が準備していない(慣れていない)事態を目の当たりにすると動揺する。」という話も納得です。



次に、寺方町1区、三重平中学校PTAから2023年度の活動報告がありました。

今回つどいに参加された方々、発表された方々は、無理をしていない様子を感じられてとても良かったと思います。同和問題、人権問題を特別視せず、肩の力が抜けてきたように思いました。同和教育も新たなステージに入った感じです。これからの神前同推協の活動次第ということでしょうか。これからこそがんばってほしいと思います。期待しています。

自治会やPTAの方々の活動報告発表をお聞きし、各団体での活動の様子がよくわかりました。

そして神前小学校2年生の児童による人権学習の発表でした。

2年生の学習発表は、自分の名前の由来を両親から教えてもらい、自分には夢や期待が込められているということを知ったことだけでも素晴らしいことだと思いました。



2部では、企画部による啓発劇が行われました。

啓発劇の「友だちがいるから気にしてへん」について、ここまで深く考えたことがなかったことに気が付きました。最初は難しく思いましたが、色に例えて最後にスライドで見ることができたのがとても分かり易かったです。



「私差別しとらんよ。」「いや、しとるよ。」と言合える関係や「何か言えずに困ってへん。」「話してくれてありがとう。」とお互いに気づくことができる雰囲気などを啓発委員研修会や地域団体の懇談会で作っていく一員になれるようにこれからも参加していきたいです。

神前地区で働き始めましたが、それまでは部落差別について考えたことがありませんでした。自分が差別する側だなんて、思ってもいなかったのです。しかし、様々な方と話す中で、まずは自分の考えを知り、今後どうしていきたいのかを具体的に考えて行くことが大切だと感じています。子ども達に接する自分の価値観を、繰り返し振り返っていきたいと思うようになりました。

## 最近「おかしいなあ」「どうしてかなあ」と思ったこと⑤

今の日本で幸せなことは、蛇口をひねれば「安全な飲める水」が手に入ることです。海外へ行って、水道水を飲むのはちょっとした冒険心が必要なのです。その代わりに、いろいろな種類のミネラルウォーターを味わうことができます。

この頃日本のスーパーでも、おいしくて安全な「〇〇産天然水」として、各地のミネラルウォーターがペットボトルで売られるようになってきました。けどなぜ、日本では安全な飲める水が蛇口をひねるだけで手に入るにもかかわらず、お金を払って水のペットボトルを購入するのでしょうか・・・？。試飲してみるけど、神前の水道水よりも美味しいと思う天然水は、数が少ないように思います。

また、そのミネラルウォーターの価格設定にも驚きがあります。500ml入りペットボトルの価格が2ℓ入りのペットボトルより高いことが散見されるのです。容器の原価も輸送費も2ℓの方が断然高いと思うのですが・・・？。どうも自分の価値観と商品の価格にはずれがあるようです。

三滝川沿いには美味しい地下水(伏流水)を求めて、多くの酒蔵が点在しています。神前の水道水は、近隣の地下水をポンプでくみ上げ供給されていると聞いています。自分が美味しいと飲んでいるのは、たぶんお酒の素と同じものだからだと、一人合点しています。



高角町 岡本郁和

以前ニュースで、ミス日本になったウクライナ出身の方が話をしていました。その方は、小さなころから外国人という容姿から、周囲から特別視されていると感じ、悩んだそうです。しかし、「あなたはあなたのままでいいのよ。」というお母さんの言葉で気持ちが楽になったそうです。その後、日本国籍を取得してミス日本選考会へ出場し、見事優勝しました。彼女は同じ思いを持っている人達の励みになればと、話をされていました。

私も外国の方を特別視しているつもりはありませんが、言葉や容姿の違いに戸惑い、「外国の方だなあ。」とってしまうことが態度や様子に現れ、それを相手の方には「特別視」と受け取られてしまうのだろうと、改めて思いました。

「外国の方だから、言葉が分かってもらえるだろうか。」とか「食事は口に合うのだろうか。」等。今の日本には外国の方がいっぱい来ているにもかかわらず、未だにどこかでそう思い込んでいる自分がいることに気づき「はっ」とすることがあります。そんなときの「視線」が、ひょっとしたら相手に寂しい想いをさせているのかもしれないなあ、と改めて考えさせられたお話しでした。



高角町 林崎末佳

**同推協啓発委員 募集中**  
啓発委員になっていただける方は市民センターロビーに設置してあるポストにお名前を記入して投函してください。(申込用紙は置いてあります。)お電話でも、FAX、メールでも構いません。啓発委員になっていただければ委員研修やイベントに参加したり、同推協の活動内容のお知らせを送らせてもらったりします。

【問合せ先】神前地区市民センター内 団体事務局 Tel・fax 327-1501 (受付午後)

Email : [kanzaki-do@m2.cty-net.ne.jp](mailto:kanzaki-do@m2.cty-net.ne.jp)